

令和元年度 学校自己評価システムシート(大川学園高等学校)

目指す学校像	校訓「自律 協調 奉仕」のもと、一人一人の生徒を大切に、社会に貢献する人材を育てる学校
重点目標	「チーム大川」として、「福祉マインド」による教育活動を展開し、生徒・保護者・地域等からの信頼を得る ①「学び直し」により、どの生徒にも学ぶ喜びを実感させ、着実に学力を身につける ②深い生徒理解に基づく生徒指導を徹底し、進路実現を図るとともに人格の完成を目指す ③地域と連携して、開かれた学校づくりをすすめるとともに、安定した生徒募集を実現する

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校関係者評価委員会会議を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者評価委員	5名
	事務局(教職員)	4名

学校自己評価		学校関係者評価		
年度目標 令和元年5月28日実施		年度評価		
番号	現状と課題	P(具体的方策)及びD(実行) ◎新規 ○継続	C(評価) 達成度 A(次年度への課題と改善策)	
1	<p>○学習意欲が低く(家庭学習の習慣が身につけていない)、義務教育段階の学習内容の定着が不十分である生徒が多い。 ○保護者から「学び直し」への期待の声がたいへん多く聞かれる。 ○昨年度の進学者は78.8%(うち大学・短大への進学者8名)で、進学希望者が増加している。 ○昨年度全校生徒の授業満足度は81%であるが、授業における「主体的・対話的で深い学び」の実践は不十分である。 ○2022年度に新教育課程完全実施を控えている。</p> <p>→学習の「学び直し」体制の充実 →進学希望者増加に応える学びづくり →他校にはない魅力(特色)ある学びづくりの充実 →「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の工夫・改善 →新教育課程完全実施に向けての準備 →福祉科カリキュラムの研究推進</p>	<p>◎月曜日＝「学び直しの日」の充実 →普通科に英語授業を増設 →「ステップ・アップ講座」の充実…「ジャンプ数学」「ジャンプ英語」を増設 ◎校長による早期講座「ゼロゼミ」の新設→学習リーダーの育成 ◎英語科土曜特別講座「サタゼミ」の新設→生徒一人一人の実態に合った英語指導 ◎SDM(システムデザインマネジメント)授業の継続・充実(慶應義塾大学大学院との連携)→飯能プランニングコンテストへの参加 ◎普通科選択授業(フィットネス)におけるミュージカル教育の継続・充実(ソニーミュージックエンターテインメントとの連携) ◎大川学園医療福祉専門学校との合同授業の継続・充実(福祉科) ◎各種検定合格者増加に向けた指導方法の工夫(検定対策講座の充実) ◎他校の授業研究会等への参加推進 ◎新教育課程検討委員会の設置とカリキュラムの検討 ◎全国福祉高等学校長会主催の研修会へ福祉科教員派遣</p>	<p>【評価指標】 ○授業満足度90%以上(全生徒への授業アンケート)昨年度81%→本年度84% ・月曜日普通科に英語授業(基礎)新設 ・ステップアップ講座→年間19回/6講座(国1,数3,英2)/外部講師7名 ・ゼロゼミ→年間11回、サタゼミ→年間23回 ・SDM→飯能プランニングコンテスト優勝等 ・ミュージカルプログラム授業→向上、感動的な成果発表 ・福祉科→埼玉県介護技術成果発表会入賞 ・ビジネス文書実務検定で2級合格(2年生) ・県私中高協会通信制研究会の授業視察に教員3名参加(武蔵野星城高校) ・英語と家庭科の履修学年の変更(R2～) ・全国福祉高等学校長会埼玉大会実行</p>	<p>B</p> <p>○進学希望者増加に応える学びづくり ・進学希望者向け講座の増設「7ゼミ」 ・ステップアップ講座の継続・充実 ・自主学習への対応 ○特色ある学びづくり ・SDM、ミュージカルプログラム授業の継続・充実 ・福祉科授業の充実、介護技術成果発表会関東大会出場への取組推進 ○新教育課程完全実施に向けての取組 ・教育課程検討委員会におけるカリキュラムの検討</p>
2	<p>○数年前と比較して問題行動は減少しているものの、SNSによるトラブルが多い。 ○自分に自信がなく、人との関わりに不安を抱える(人間関係づくりが苦手である)生徒が多い。 ○3月末進路決定率は98.5%(進学78.8%・就職19.7%)で、進学希望者が増加している。 ○「入れる大学」から「入りたい大学」にチャレンジする浪人生が2年連続で出ている。 ○昨年度、大川学園医療福祉専門学校への内部進学者10名と急増した。</p> <p>→社会人としての基礎基本の徹底 →「福祉マインド」(＝一人一人を大切に教育)による生徒指導体制の構築 →ルールとリレーションの学び直し →小さな変化に気付き共有できる、フットワークの軽い、仲のよい教員集団による日常指導の継続 →道徳教育の充実 →3年間を見通した計画的な進路指導計画の見直し →安定した内部進学者確保に向けた取組の推進</p>	<p>○定期的な生徒アンケート実施 ◎担任との2者面談、3者面談実施 ◎カウンセラーの教室訪問等 ○「3つの基本」の指導強化→時間を守る/人の話を聞く/素直に聞き入れる ◎遅刻者数減少への取り組み強化 ◎SNS活用マナー教育の推進 ◎生徒主体の割合を高めた行事等の推進 ◎担任等による道徳授業の実施 ◎道徳的価値を意識した行事づくり ◎進路部長の変更で新たな動きづくり ◎保護者会等で広報部長の情報提供時間の確保 ◎高専連携・合同授業の継続・充実(再掲)</p>	<p>【評価指標】 ○進路満足度90%(3学年アンケート)昨年度83.8%→81.4% ・頭髪服装指導件数ゼロ 昨年度7件→本年度5件 ・年間延べ遅刻者数400人以下 昨年度476人→本年度621人 ・交通事故件数ゼロ 昨年度1件→本年度1件 ・問題行動 昨年度11件→本年度9件 ・チャイム着席100% 昨年度70%→本年度80% ただし5分前全員入室は100% ・進路決定率100% 昨年度98.5%→本年度98.6% ・生徒会中心に自ら判断・行動した企画と実践が増加(体育祭、学園祭) ・「入れるところへから入りたいところへ」を目指した進路指導の実践(多数の教員による繰り返し面接など) ・日本社会事業大学(「福祉の東大」)へ初の合格者 ・道徳授業研究会の実施(8月)及び学級担任による道徳授業の実施(2学期)</p>	<p>B</p> <p>○生徒の心を育む生徒指導 ・社会人としての基礎基本の徹底 ・遅刻者減少への取組強化 ・SNS活用マナー教育の推進 ○ルールとリレーションの学び直し ・行事等における生徒活動機会の増加 ・担任等による道徳授業の継続・充実 ・道徳的価値を意識した行事づくり</p>
3	<p>○「ボランティアの大川」という評価が地域に定着している。 ○市長が「飯能市立大川学園」としばしば発言されるように、地域に根付いた学校の印象が強い。 ○全日型(週5日登校)の本年4月の入学生は78名(定員80名)であった。 ○併願者の入学者数は県内、都内の就学支援状況、入試倍率の高低などで予測がつきにくい。</p> <p>→多様なボランティア活動の継続、推進 →地域活動への積極的参加 →生徒の頑張り、学校の取組について紹介する発信力を強化 →学校外の方々に学校に足を向けていただく機会の増加で学校理解促進 →法人本部広報室と一体化した戦略的な広報、生徒募集活動の推進</p>	<p>◎飯能新緑ソーデーマーチへの全校生徒参加 ◎飯能市周辺行事へのボランティア参加者増加…飯能まつり(夏・秋)、飯能新緑ソーデーマーチ、震災復興元氣市、天覧山清掃、巾着田春まつり等 ◎女子サッカーチーム「エルフェン埼玉」主催試合へのボランティア参加継続 ◎広報戦略の見直しと実行…入試募集委員会の委員長変更と主担当変更で工夫改善の促進 ◎募集戦略…学校説明会参加者増加は入学者増加!学校の魅力アップ!伝え方アップ! ◎見ごたえのある学校案内の作成 ◎広報・募集活動におけるタブレットの活用 ◎ホームページの適時適切な更新(◎学校ブログ「大川学園高校NOW!」の開設、毎日更新) ◎見ごたえのある学校案内の作成 ◎広報・募集活動におけるタブレットの活用 ◎日常的授業公開および2週間の学校公開期間(年間1回)の実施方法・公開内容等を工夫 ◎市内外中学校への出前授業の実施および上級学校訪問の積極的受け入れ ◎中学校訪問等による積極的な生徒募集活動の実施…管理職は訪問別動隊として活動 ◎福祉系大学からの教育実習生受入れ</p>	<p>【評価指標】 ○福祉科40名、普通科40名定員充足率100% 福祉科43名、普通科50名→普通科2学級開設が実現 ・学校説明会参加者の増加30%(昨年度) 昨年度640人10%増加→本年度660人3.1%増加 ・「飯能新緑ソーデーマーチ」への全校参加 ・学校説明会等、入試募集方法の工夫実践(生徒情報管理の工夫で成果あり) ・学校ブログ「大川学園高校NOW!」の開設、授業日毎日更新 ・部活動→軟式野球部埼玉県大会優勝、埼玉県チーム日本一(女子ソフトテニス、女子剣道)</p>	<p>B</p> <p>○地域との連携強化の推進 ・ボランティア活動の推進 ・「飯能新緑ソーデーマーチ」への全校参加の継続、充実 ○広報、生徒募集活動のさらなる工夫と充実 ・R2年度「立志」をサポートし、「伸びしろ」大きくする大川学園”で売り込む” ・学校案内作成における工夫 ・学校説明会の工夫と充実(データの保存様式を含めて) ・ホームページの見直しと充実 ・学校公開日の来校者を増やす手立て</p>

学校関係者からの意見・要望・評価等

・「学び直し」をテーマに、基礎基本の力を身につける指導をていねいに行っていることを評価する。
 ・さらに苦学克服だけでなく生徒の長所を伸ばす取り組みを行っていることが素晴らしい。校長が行っている「ゼロゼミ」も生徒の力を伸ばすことにつながっている。
 ・「飯能プランニングコンテスト」における好成績は、SDM等の学習を通じて「生きる力」の育成が進められている成果である。

・あいさつがよくできる気持ちのいい生徒が多い。教員と生徒の人間関係が良好に保たれている。
 ・生徒たちが自校にプライドを持つように、学校生活の中でいい思いをたくさんさせてほしい。
 ・後援会は学園祭活動への援助を行うなど、生徒により近い存在になれるよう努めている。
 ・福祉科から日本社会事業大学(福祉の東大)への合格者が出たことはたいへん素晴らしい。
 ・大川学園医療福祉専門学校へ内部進学する生徒たちの活躍や自己実現にも期待したい。

・地域ボランティアへの参加、飯能新緑ソーデーマーチへの全校参加、赤い羽根共同募金への協力等、地域に根差した教育を進めていることを評価する。
 ・生徒、教員、保護者、地域が一体となってより素晴らしい学校づくりを進めてほしい。
 ・「立志(志を立てること)」は最も大切なことで、進路指導やキャリア教育とも深く結びついている。目標を明確にすることで学ぶ姿勢も向上するはず。今後さらに期待したい。